千丈寺山に登る

第 66 回武庫川エコハイク

2012.10.13.エコグループ・武庫川

大阪湾フェニックスセンター助成

武庫川 全長 65km、流域面積 500km^2、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第１０位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。

ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊することで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22（2010）年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

青野川 青野川は摂丹国境（三田市と篠山市境）の三国ヶ岳（６４８．２m）を源流として、途中、末で黒川と合流し青野ダム・千丈寺湖をつくり、更に流れて下井沢で武庫川本流と合流する長さ１０．３km の羽束川、有馬川に次ぐ武庫川第３の支流である。源流部は標高５００m 余の三田のチベットといわれる母子地区であり、その後青野川渓谷（約３km）を通過し、青野地区を緩やかに流れる。黒川と合流後、青野ダム以降また渓谷になり三田盆地に入る。

黒川 武庫川の支流。後川三国ヶ嶽（標高 697.7m）の西南山麓付近を源流とする。千丈寺湖で青野川と合流する。

乙原（おちばら） 地名の由来は不明だが、江戸時代この地区で土砂留普請が行われた記録があり、これから「落ち原」「乙原」となったともいわれる。

乙原てんぐの森 兵庫県「新ひょうごの森づくり」の里山ふれあい森づくり事業で整備された。面積約 21 ヘクタール。平成 22 年度オープン。地元のグループが整備をしている。阪神北県民局が推進する「北摂里山博物館 30 箇所のひとつ。

北摂里山博物館 日本一の里山のある兵庫県阪神北地域の都市に近い多くの里山を市民に知ってもらい、里山の利活用を活発にしようと平成 24 年に設置された。

千丈寺山 標高 589.6m。三田市の黒川と青野川に囲まれる独立峰。山頂に一等三角点がある。昔、法導上人が六甲山から北を見ると瑞雲のたなびく山があり、ここに仙城寺というお寺を創建したが、戦国時代の戦火で焼失したという。山頂近くに千丈寺山大権現の祠があり下青野感神社が神事を行っている。遥拝所もある。

千丈寺山の天狗（伝承） 昔六甲山上に住んでいた天狗がここ千丈寺山にも飛んできていました。乙原の屋根屋の職人が仕事中に行方不明になり、皆で探したが消息が分からず「天狗隠し」にあったのだということになって、葬式まで出された。数十年後職人の家に仙人が現れて、仏壇に経を上げていた。それを家人に見つけられたので、慌てて飛び出し千丈寺山に飛ぶように消えていったという。

青野城跡 千丈寺山の南西にある高根山（361m）山頂付近に砦があったという。

青野城の合戦（伝承） 戦国時代、青野城には青野貞政が城主だった。藍岡山城の山崎氏の軍勢が攻めてきた。青野貞政はその猛攻に耐えてきたが城も危うくなり、城の斜面に竹皮を敷き詰めて滑って登れないようにしたが、山崎氏側はこれに火をつけたため城は炎上し落城した。後の世になって「城山に虹がかかるとキラキラ光るものが見える。その近くの白つつじの下に金の茶釜が埋めてある」と噂が立った。

末 末の地名は昔須恵器を作った人々が住んでいたところからきた。

末東、末西天満神社 両社ともに京都北野天満宮より分霊を勧請し創建されたという。祭礼の日も同じで谷（今は湖水）を挟んで日の丸扇でお互いに招き合う神事がある。また当日には「ホウホウ踊り」という田楽が奉納される。末西天満神社には等身大の聖観音立像が祀られている（三田市指定文化財）。

末の観音さん（伝承） 昔、千丈寺山の麓に訟林寺というお寺があったが、戦国時代に明智光秀に焼かれてしまった。ご本尊の観音様の仏像をお坊さんが運び出し、近くの池に沈めた。後世この池に入って遊んでいた子どもが腹痛を起こしたり、大人が魚を取りに入って腹痛を起こしたりした。しばらく人が近づかなかったが、ある時池ざらえをしたら底からきれいな観音像が見つかった。村人はこの観音様を守り神として大切に守った。今、末西天満神社に祀られている。

お旅橋 末西天満神社の祭礼で使われるお旅所近くにある橋。

青野ダム・千丈寺湖 青野ダムは兵庫県が洪水調節、流水の適正流量の確保(農業用水など)、上水道用水の供給の目的とした多目的ダムとして、青野川と黒川の合流点に昭和 58(1983)年に着工、昭和 63(1988)年に完成した。三田ニュータウンへの上水の供給が可能となり、下流の洪水被害も軽減できるようになった。平成 23 年の武庫川治水整備計画では予備放流により 40 万m^3 洪水調節要領を増加するにとになっている。ダムの規模 集水面積 51.8 ヘクタール 堰堤高さ 29.0m(標高 186m) 堤長 286.1m 湛水面積 2.15 百万 m^2、貯水容量 14.1 百万 m^3 貯水池容量の配分内容 利水容量 9.3 百万 m^3、洪水調節容量 5.4 百万 m^3（重複容量 80 万 m^3）、水没地域 面積 248.9 ヘクタール 水没戸数 87 戸。

母子大池の灌漑用水 母子大池の灌漑用水がこの高地を潤す。水管橋を経て末野大池に至る。末野大池は平地に設けられた皿池である。

丹波街道 東野上から加茂を経て藍本町宿にいたる。

塩掛橋の道標 塩掛橋の西側にある排水ポンプ場の敷地の中に中山から大川瀬に至る文字が見える、24 番札所中山寺から花山院を経由して 25 番清水寺への巡礼道の道標である。

広野排水ポンプ場 昭和 50 年ごろまではこの辺りの武庫川は天井川でこの地区は内水被害に会っていた。これを解消するために大規模の排水ポンプ場が設けられた。